（郵便局認可）　（日曜日休刊）　（定價三錢）

時事新報

第千二百廿七號
明治十九年三月十九日　金曜日
舊丙戌二月十四日（戊寅）
日出午前六時廿七分　日入午後五時九分
月出午後四時十一分　月入午前四時三十八分
潮汐午前五時四分
（西暦一千八百八十六年）

時事新報

日本國の鐵道事業　六

鐵道建設は迅速なるを得べし

中山道は日本國中名打ての難場あり大北鉄道の一線亦偏僻に去て工事に便あらず是れ両鉄道布設の運々たる所以なり去て合計三千四百餘萬の大金と費ゑせ置くも事情已むを得ざるを出づるとせゑ此大金を両道に使用すると雖去て東海道山陽道より更ゑ九州に新線を開き若し資金に不足もあらば右れ外に更に幾千萬の資金と募りて苦しからず兎に角に日本國の鉄道事業が偏僻なる大北線路と險峻なる中山道をのみ限りて第一着歩の地とせべき謂れも無からん何れの邊り只費用の廉くして工事捗取の速なる其地方と撰みこれゑ彼の大資金を投入すると冀の最も得たるものにて鉄道速進れ點より見るも亦極て便方なる可し中山道の鉄道公債は中山道鉛が切りあるゆゑに其工事は如何ゑ捗取らずとも又其資金は眠金となりて空く利息のみ加いるとも此一線路外に流用は相成らず又日本鉄道會社の株金とても元、東京青森間に鉄道と布設せるた是れ政府が八分の利子とも保證しるとあると若しこれを他の線路に流用せるやうの變ありて株主の信用も如何しく又政府ゑ於て銘